課題名　産地間競争に打ち勝つための新たな品目・価値の創出
伝統産業の振興に必要な広葉樹の品種選抜及び増殖技術の確立

冬期気温さえ配慮すれば府内でもハゼノキの栽培は可能

■開発のねらい

ハゼノキは京都の伝統産業品「和蝋燭」には欠かせない櫨蝋（はぜろう）を産する樹木で、九州地方など主産地では年々生産量が激減していることから、和蝋燭業者からは府内での産地づくりが要望されています。しかし、暖帯性の樹木であるため、府内における栽培に向け、その可能性を調査しました。

■研究の成果

- 先進地の福岡県からの聞き取り調査結果から、栽培方法や採取、櫨蝋の流通等がわかった（図1）。
- 郷土誌等の文献調査から、江戸時代には舞鶴・加佐地域でハゼノキが栽培され櫨実を生産していたことが判明（図2）。
- 自生地調査から、丹後半島から舞鶴の日本海沿線で広くハゼノキの自生を確認（図4）。
- これらのことを基礎として、ハゼノキの栽培マニュアルを作成（図3）。

■活用の分野

府内の文献資料、現地調査から、ハゼノキが自生する日本海沿岸の地域では栽培マニュアルにより植栽適地を判定し、園地造成、管理、採種等一定指導が可能。

ただし、ハゼノキは暖帯性であることから、寒害（凍害）を受けやすく、寒冷地対策は先進地調査では判明しなかったことから、現在対応策を調査中。

今後、解明でき次第、マニュアルを改訂。

図１　先進地の聞き取り調査（福岡県）

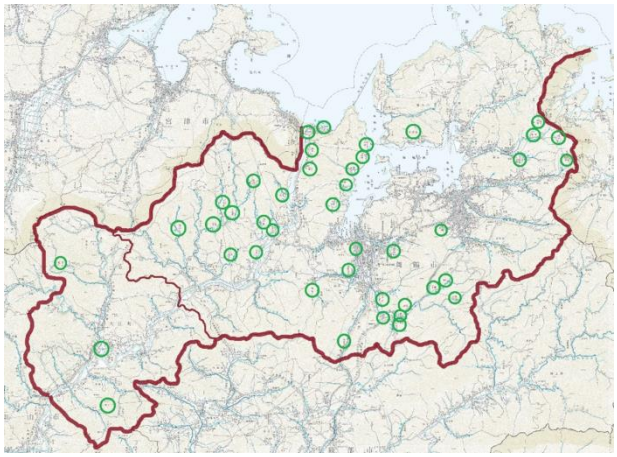

図２　櫨実が「物産」であると地誌に記述のあった地域（舞鶴・加佐地区：緑○）

図３　栽培マニュアルでハゼノキ園地造成へ

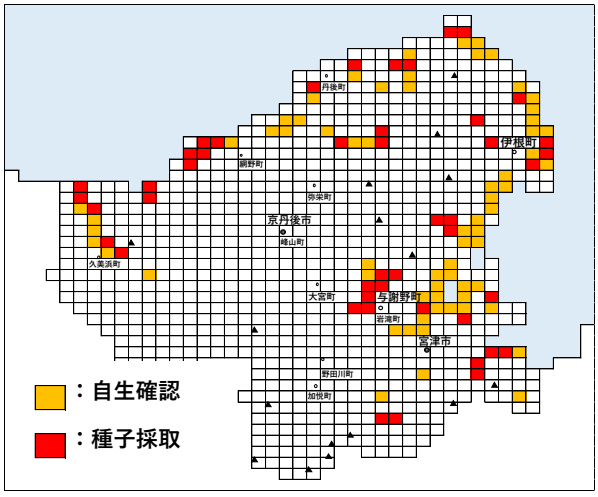

図４　丹後半島で確認したハゼノキの自生と結実

問い合わせ先：農林センター森林技術センター（森林部）緑化センター　0773-38-0066